

<b>Title</b>	いかにしてもう一度立ち上がるか：これからの 100 年を見据えて：「苦難に寄り添い前に向かう教会」実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News：第 2 回「東日本大震災国際神学シンポジウム」）
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.23-No.1, 2013.9 : 33-35
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4608">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4608</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

第2回「東日本大震災国際神学シンポジウム」  
 いかにしてもう一度立ち上がるか  
 —これからの100年を見据えて—  
 「苦難に寄り添い前に向かう教会」  
 実施結果—アンケート集計結果の概要—

日時：2013年3月27日(水)10:00～17:00

場所：お茶の水クリスチャンセンター

8階チャペル

【プログラム】

主題講演 「『神の忍耐の時』の中で、苦難の救い主に仕える」

リチャード・J・マオ（フラー神学大学院学長）

パネル・ディスカッション

コーディネータ 藤原淳賀（聖学院大学総合研究所教授）

「キリスト教大学の行うボランティアとは何か—直面する二つの問い」

伊藤悟（青山学院大学教授）

「震災ボランティア活動と若者の宗教心の発達」 岡村直樹（東京基督教大学教授）

「カトリック教会の立場から」

幸田和生（カトリック東京教区補佐司教、カリタスジャパン担当司教）

「心理臨床家として考えさせられていること」 藤掛明（聖学院大学准教授）

「発表を受けて」 リチャード・J・マオ

分科会 I

A 「東北のハリストス正教会」

山口陽一（東京基督教大学大学院教授）

B 「ポスト・フクシマの被災地における教会と社会—被災地から、

リチャード・J・マオ教授の主題講演への応答」

川上直哉（東北ヘルプ事務局長）

C 「原発とキリスト者1—福島放射能汚染の現状と課題」

木田恵嗣（福島県キリスト教連絡会会長）

D 「大震災と心のケア—喪失と怒りへのケア」

窪寺俊之（聖学院大学教授）



パネルディスカッションの様子

E 「震災における教派・教会を越えた出会い」

吉田久仁子（いわき・清風幼稚園園長）、  
松本周（聖学院大学総合研究所助教）

分科会 II

F 「3.11から学ぶキリスト者の災害対応」

ジョナサン・ウィルソン（クラッシュ・ジャパン代表）

G 「被災地の子ども支援—子ども心のゆくえ「よかった」の回復」

米内宏明（Sola代表/日本バプテスト教会連合理事長）

平田美保（Sola現地ディレクター）

H 「原発とキリスト者2—脱核の倫理の探求—日独戦後史をめぐる—断想」

福嶋揚（青山学院大学講師）

I 「『弔い』と震災後の展開について—内陸部地震被災地域の牧師として」

井形英絵（日本バプテスト連盟南光台キリスト教会牧師、東北ヘルプ理事）

J 「国民統合、自衛隊と教会」

安藤能成（日本同盟基督教団理事長）

K 「青年と震災」

小川真（キリスト者学生会関東地区主事）

野田 沢（日本基督教団学生キリスト教友愛会主事、日本基督教団震災担当幹事補佐）

全体会 「教派教団を越えた働きについて」

川上直哉

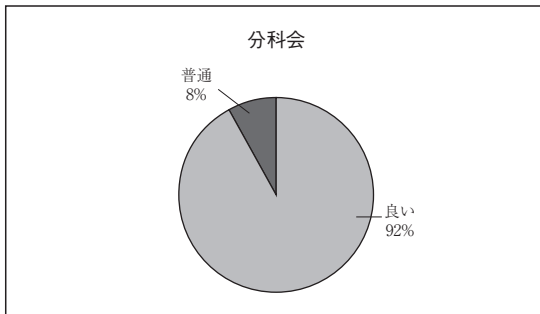
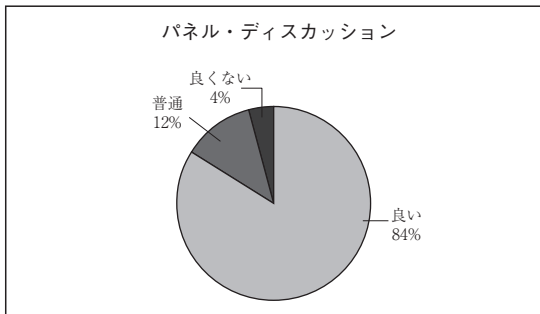
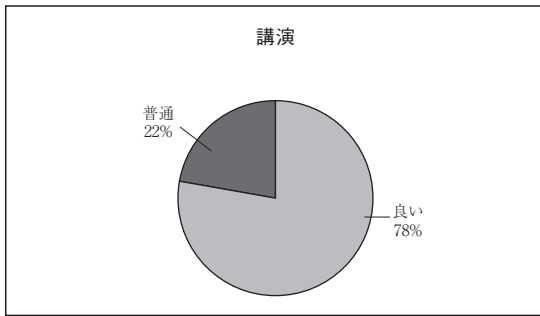
【結果の概要】

・参加者は165名。内、アンケート回答者は27名。

・講演について、「良い」という意見が78%、パネルディスカッションは、「良い」が84%となった。

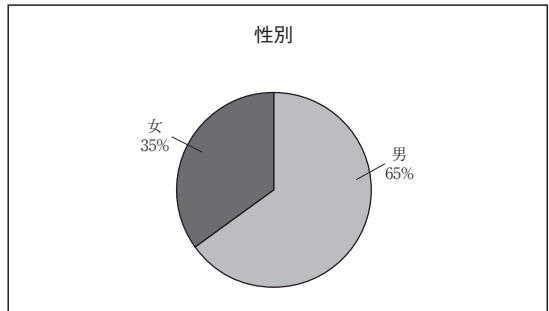
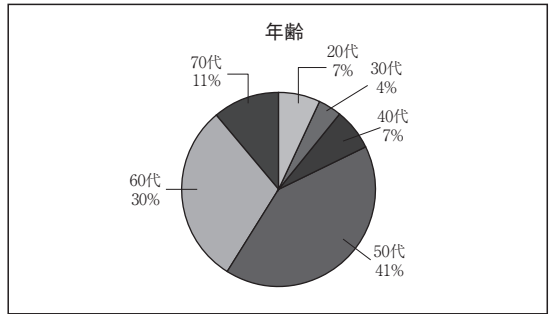
分科会については、92%「良い」と、全体的に高い評価を得た。

・自由意見として、「大変意義深い内容だった」「パネルディスカッションも広がりがあった」など。



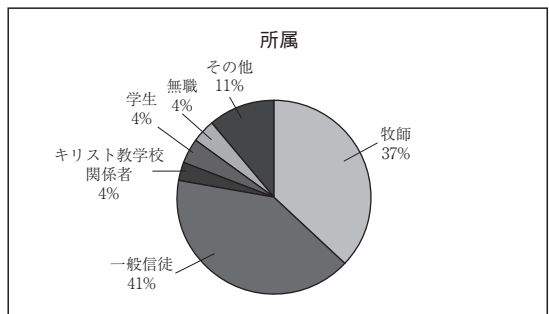
## グラフ

(N/Aは除く)



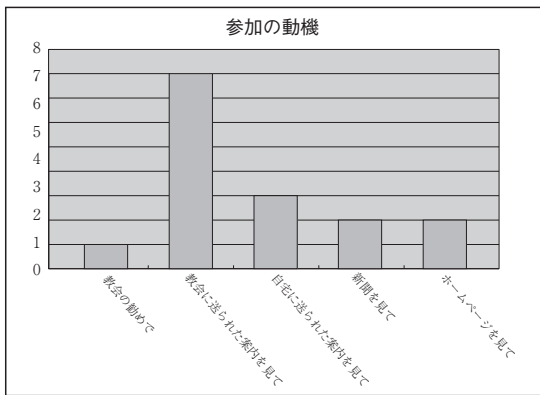
\*回答者の年齢は、「50代」が最も多く41%、次に「60代」30%となった。

性別は、「男性」65%、「女性」35%。



\*所属として、「一般信徒」が最も多く40%、「牧師」が37%となった。

「その他」の内容として、「神学生」「教会事務」など。



\*参加の動機は、「教会に送られた案内をみて」が最も多く、次に「自宅に送られた案内を見て」。「その他」の内容は、「学校でチラシを見て」「先生に教えられて」など。

## 自由意見

・東京から東南海の巨大地震に向かい、この地域の教会は何を備えればいいのか。現時点では無策です。

・参加した分科会が2つとも素晴らしい内容でした。その他個々の集いについて多少の良し悪しはありましたが、全体を通して大変質の高いシンポジウムであったと思います。どうもありがとうございました。あと参加費が安価で助かりました。感謝しています。

・第1回に比べて、具体的、実践的アプローチがあり、有効であった。以下の視点が不足しているように思われるので、次回に期待する。

1. 復旧、復興から再生への取り組み。
2. 東北中心から、首都圏大震災予測などを捉えた取り組み。
3. 音楽・美術の分野が果たした役割と神学的アプローチ。
4. 教会とNPO（企業）の協力。

・怒り治療法について詳しく聞くことが出来ました。弔いについても、とても興味深く考えさせられました。ありがとうございました。

・他の分科会にも興味がありましたので、出席できず残念でしたが、東日本大震災について学ばせて頂きながら、自分の教会か地域教会としての役割を果たせていけるようにするために、これからも機会があれば参加していきたいと思ひます。東

北の為の引き続き祈り、ボランティアに参加していきたいと思ひます。

・今日は分科会などもあり、パネルディスカッションもあり、それぞれ素晴らしい内容でしたが、時間が足りなく質疑応答も時間が限られており、(当然のことですが) 質問できず、残念でした。たくさんの問いをいただいた意味では、大変感謝でした。

・分科会の中で、レクチャーの部分が長かったように思ひます。小グループでの分かち合いがあればさらに深まると思ひます。

1年に1回ではなく、季節ごとに1つのテーマ(例 A-Kの中のひとつ)を掲げて話し合い、分かち合いがなされたら良いと思ひます。

・初めての参加、なんとすばらしい学びの場だったのでしょ。帰りまして所属する仲間へ伝えたいたと思ひます。ご奉仕にあたられました方々に心よりお礼申し上げます。

・主題講演はすばらしかった。パネルディスカッションも広がりがあった良かった。

・大変刺激的なシンポジウムでした。もう少し消化する時間が欲しかったように思ひます。

・全体を通して具体的な体験をもとにしたお話が聞けてわかりやすかった。

・大変よく整えられた内容に主にあって心から感謝でした。

・本当に大変だと思う。日本から原発がなくなることを祈っています。

・大変意義深い内容でした。ありがとうございました。

・マウ先生のレクチャーをネットで読めるようにして下さい。

・質疑応答の時間がもう少しあるとよかったです。